

【一般財団法人同友会 法人目標】

- ① 24時間、迅速急性期医療と専門性を持つ医療の充実
- ② 医療、保健、福祉における包括サービスの提供
- ③ 地域コミュニティ形成を目指す健康増進の推進
- ④ すべての職種に対する医療者としての教育、研修の場の確立

【藤沢湘南台病院 病院理念】

- ① 信頼とやすらぎのある医療
- ② 専門性と倫理観のある医療
- ③ 地域に貢献する医療

一般財団法人同友会
藤沢湘南台病院
藤沢ケアセンター
藤沢訪問看護ステーション
居宅介護支援センター
長後いきいきサポートセンター
ライフメディカルフィットネス
ライフメディカル健診プラザ



私たち、藤沢湘南台病院 薬剤部です

地域の保険薬局の薬剤師と連携をとりながら、患者さんそしてご家族にご協力いただきながら、チーム医療の一員として安全に、そして安心して薬剤を使用できるように関わっていきたく考えています。

薬剤部からのお願い

病院を受診する時は必ず「お薬手帳」をお持ち下さい。大切な情報源となります。「お薬手帳」は1冊にまとめましょう!!

家に飲み残してしまった薬が沢山ある、という人も少なくないのではないでしょうか。なぜ、薬が残っているのか、患者さんの状況を確認して、共に一番良い服薬を考えていくことも私たち薬剤師の仕事です。

今、医療費が膨れ上がっている中で、医薬品費の占める割合は大きくなってきています。驚くような高額な薬剤もあります。1回投与の金額が100万円を超える注射薬や1錠5万円以上する薬剤もあります。そのような中で問題となっているのが、ポリファーマシー（医薬品の多剤併用）といわれているものです。いくつもの医療機関から同じ効果の薬が投与されていることもあります。複数の疾患の治療のために薬がどんどん増えていくこともあります。

副作用の恐れがあるため高齢患者さんに「適していない」とされる薬が、在宅医療をうける高齢患者さんの48%に処方され、うち8%の患者さんに副作用が出ていたという厚生労働省の調査結果も出ています。

藤沢湘南台病院薬剤部は、

「医薬品を安全に、そして安心して使用できる環境を整えるー医薬品を適正に使用する環境を作る」ことを第1に日々業務を行っています。

がん治療と薬剤師

近年、高度かつ複雑化するがん治療に対して、薬剤師は専門性を生かしたより良質のがん治療を提供するため、がん薬物療法についての知識・技術を備えたうえで、患者さんの保健・医療・福祉に貢献しなければなりません。

がん薬物療法認定薬剤師とは、認定薬剤師認定審査に合格し、がん領域における薬物療法の十分な知識と技術を用いて、質の高い業務を実践していることが認められた薬剤師です。平成28年3月1日現在、全国に989名のがん薬物療法認定薬剤師が各医療機関で活躍しています。

今や2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで死亡する時代です。

当院では、主に大腸がん、胃がん、乳がん、肺がん、前立腺がんに対して、多くの患者さんが抗がん剤治療を受けています。

治療に専念されている患者さんに良質かつ安全・安心な抗がん剤治療を提供するためには、がん薬物療法認定薬剤師になることが必須であると考え、昨年認定を取得しました。

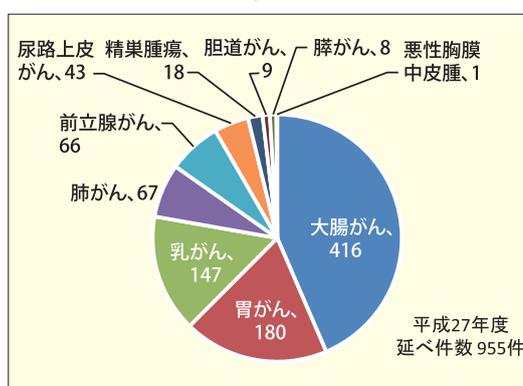
がん治療は、患者さん、ご家族、医師、薬剤師、看護師など多くのメンバーで取り組むチーム医療です。そこで、次のテーマを大切にしながら日々の業務を行っています。

- ・チーム医療で専門的な知識、技術を提供する
- ・根拠に基づく患者さんに合った治療選択を提案する
- ・安全、安心かつ患者さんの希望する処方設計を提案する
- ・多職種、他領域の専門家と協働し質の高い医療を提供する

通常、外来化学療法室で勤務しておりますので、抗がん剤治療でお困りの方はお気軽にご相談ください。



藤沢湘南台病院
がん薬物療法認定薬剤師
遠藤 篤



平成27年度 外来化学療法延べ件数内訳 (単位: 件数)

がん患者の食事の工夫 ~少しでも食べられるために~

がんに対して手術や化学療法などを行い食事が摂れなくなった場合や、がんが進行して食事が摂れなくなった場合、みなさんは日頃どのような食事の工夫をされていますか。今回、がんと戦っている方に少しでも食べられるよう、症状に応じた食事の工夫のお話をさせていただきました。その中の一部をご紹介します。

1) 食べると気持ち悪くなる場合、

食べられるときに少しずつ食べる、口当たりのよいものを食べる、揚げ物や脂肪分の多いものは避ける、同じものを続けて食べないようにする

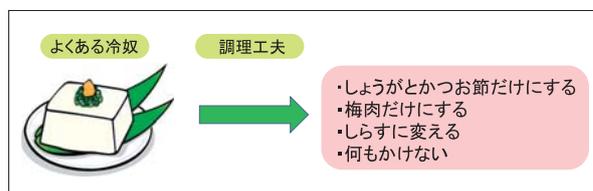
2) 何を食べてもおいしく感じない場合、

亜鉛欠乏なら亜鉛補給、嗅覚が敏感になっていたら、ごはん・おかずを冷まして食べる、口腔ケア：歯磨き、舌苔の除去、保湿を。

3) 口の中が痛くかめない(口内炎)場合、

かたいものは避け、やわらかく飲み込みやすいものにする(ゼリーなど)、食べものは人肌程度に冷ます、味付けは薄味に

ただし、症状に対して全てあてはまるわけではないため、個々に合わせて対応してみましょう。嗜好を確認する際、「食べられないもの」を聞くのではなく、「食べられている」ものを聞くと、食品の選択などの展開が広がりやすいと思います。



藤沢湘南台病院
管理栄養士
武富 梨紗

※内容は5月27日に開催された公開講座(緩和ケア研修)から抜粋しています。

終末期がん患者の看取りのケア ～ケアする人としての配慮(看護師の立場から)～

がんの終末期には4つの時期があります。下図の左から、最初は予後6カ月～1カ月(月単位)の期間となるターミナル前期。次に月～週単位の期間のターミナル中期。さらに週～日単位の期間のターミナル後期。最後は明確な定義はありませんが、予後数日以内の時期である臨死期です。

※「予後」とは余命、あとどれくらい生存できるかという意味で使っています。



藤沢湘南台病院
緩和ケア認定看護師
小松さゆり

ターミナル前期では、がんの積極的治療から緩和ケア中心へと残された時間を有意義に過ごせるための移行期となります。患者さん、ご家族の気持ちはこれからの治療に向けて、これ以上苦しい治療はしたくない、また最期まで抗がん剤治療を選択したいなど揺れ動き、そして不安を抱くことがあります。そんな気持ちを持つ患者さんやご家族を支えるケアが必要です。残りの時間はどこで過ごしたいか、どんなふうに過ごしたいか等の意思を確認しておくことも大切なケアの1つです。そのためこの時期は身体的苦痛の緩和をしながら医療専門スタッフと一緒に関わり、患者さんやご家族の意向を汲み取ることが求められます。

さらに患者さんは通院して治療を受ける機会が多くなるため、当院ではがん看護専門看護師と外来看護師との間で、患者さんの情報、ご家族の意向などを共有できる協力体制をとっています。また将来患者さんが判断能力を失ったときに、意思決定代理者を決めておく必要性をお話しし、患者さんとご家族の話し合いができるよう調整を図っています。



ターミナル中期では、身体的苦痛症状が出現し、症状の悪化が目立ち始めるため、緩和ケアが必要な時期となります。近い将来、がんの進行と共に起こりうる肝機能・腎機能の低下、低栄養、胸腹水貯留浮腫、呼吸困難感の出現を予測し、栄養維持や輸液量の調整の必要性をご家族に説明できれば、不安や気がかりを減らせます。それから輸液の補正や解熱剤を使用し、身体的苦痛を和らげていきます。

この頃のご家族の不安や気がかりは、ターミナル前期に比べると具体的なものへ変化してくることが多くなります。「だるくてずっと眠っていますけど、このまま寝たきりになるんでしょうか」「栄養の点滴はしてもらえないのか、水の点滴だけで生きていけるんですか」「家に帰らせてあげたいけど、こっちは精神的にまいっているからどうしたらよいかわからない」などの悩みや心配が聞かれます。まずそれを受け止めることから始め、患者さん、ご家族が希望していること、どうして欲しいのかを一緒に悩み考えていくことが、ケアする側として、患者さん、ご家族への最大の支援になると思います。

ターミナル後期では、さらなる身体的苦痛の変化に伴い、寝返りですら難しくなることがあります。多臓器不全の悪化、それはがんそのものの進行であり、不可逆的であることが多い時期です。

日々自分の身体が弱っていき、昨日まで出来ていたことが出来なくなることで精神的苦痛となります。そして痛みが強くなるに従い、死を覚悟する患者さんも少なくありません。またこの時期患者さんの意識レベルの変化を確認し、今後の経過、予測される状況をご家族に説明します。そしてご家族に対する予期悲嘆(大切なひととの別れを予期して嘆き悲しむこと)のケア、看取りへの準備を進めていくことが必要となります。しかしこれらはケアする人とご家族との信頼関係があってこそ成り立ちます。

臨死期では、苦痛緩和と看取りへの準備の時期です。ご家族の思いを受け止めつつ、ご家族の会話から少しずつこれからの過ごし方について考えなければいけません。循環動態、身体的変化から患者さんの差し迫っている死期を予測し、わかりやすくご家族に説明します。やがてご家族が患者さんの変化に気づくのと同時に死を受け入れる準備に入ります。安らかに最期まで過ごせるようにケアしていくことが大切です。

そして臨終のとき、個々のご家族の思いがあることを理解し関わっていくことが最後の配慮となります。

※内容は5月27日に開催された公開講座(緩和ケア研修)から抜粋しています。

日本医療機能評価機構から3回目の認定更新を受けました

藤沢湘南台病院は平成27年11月19日、20日の両日において機構の病院機能評価の認定更新（下記4つの領域）の審査を受け、一定の水準を満たしている病院として認められ、今年3月29日に認定証が届きました。

病院機能評価とは

医療を見つめる第三者の目。それが病院機能評価です。

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者（サーベイヤー）が中立・公平な立場にたって、所定の評価項目に沿って病院の活動状況の評価します。評価の結果明らかになった課題に対し、病院が改善に取り組むことで、医療の質向上が図られます。

認定病院は、より良い病院作りを目指して成長し続ける病院です。

病院機能評価の審査の結果、一定の水準を満たしていると認められた病院が「認定病院」です。すなわち認定病院は、地域に根ざし、安心・安全、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、常日頃努力している病院であると言えます。

すでに全国の病院の約3割が認定されています。（公益財団法人日本医療機能評価機構ウェブサイトより）

第1領域（患者中心の医療の推進）

- ・病院組織の基本的な姿勢
- ・患者の安全確保等に向けた病院組織の検討内容、意思決定

第2領域（良質な医療の実践1）

- ・病院組織としての決定された事項の、診察・ケアにおける確実に安全な実践

第3領域（良質な医療の実践2）

- ・確実に安全な診察・ケアを実践するうえで求められる機能の各部門における発揮

第4領域（理念達成に向けた組織運営）

- ・良質な医療を実践するうえで基盤となる病院組織の運営・管理状況

病院の医療の質を機能評価機構に認められたことに満足するだけでなく、

病院の理念

1. 信頼と安らぎのある医療
2. 専門性と倫理観のある医療
3. 地域に貢献する医療

病院の基本方針

1. 地域住民にとって満足度の高い安全・安心な医療を提供します。
2. 地域の医療・福祉の連携を密にし、地域のニーズに応じた質の高い医療を提供します。
3. 24時間断らない救急医療を目指します。
4. 地域の健康増進に貢献し、急性期から慢性期、終末期まで全人的で高度な医療を提供します。

を意識し、さらにより良い病院を目指して職員が一丸となって努力していきます。



認定内容

認定番号：第JC765-3号
主たる機能：一般病院2
（主として、二次医療圏等の比較的広い地域において急性期医療を中心に地域医療を支える基幹的病院）
機能種別版評価項目 3rdG：Ver.1.1
認定期間：2015年12月19日～2020年12月18日
初回認定：2005年12月19日（認定3回目）